

第3学年B組 道徳学習指導案

期 日 令和元年10月11日 第5校時
生徒数 男子15名 女子15名 計30名
指導者 教諭 川村 卓

1 主題名 伝統を創るもの 指導内容：よりよい学校生活、集団生活の充実 (C-15)

2 教材 「受けつがれる思い」(出典：新しい道徳3 東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

生徒にとって学校や学級は、生活の大半を過ごす大切な場である。自分が属する集団の向上は、自分自身の成長に結びつくものである。また、学校には、それぞれ一様ではなく独自の校風がある。

これは、これまでの先輩や保護者、地域の人々の長年にわたる努力によって培われたものである。これを後輩たちが協力し合って継承し、更に発展させよりよい校風づくりをしていこうとすることが大切である。

よりよい学校や学級、校風をつくるためには、達成感や連帯感を味わう豊かな経験を通して、自己の肯定感を高める指導が大切である。

(2) 生徒の実態について

中学生の段階は、学校生活に慣れるにつれて、集団の一員としての自覚が高まりつつある時期である。一方で、自我意識が高まりつつある時期でもあり、努力をしなくても自分の存在を認めてくれる居心地のよい集団にのみ心を許し、自分に都合のよい行動をしがちである。3年生の後期に入り、高校入試に向けて、目の前の不安と戦う生徒も多く見られるようになった。集団の在り方について多面的・多角的に考え、利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活の向上に努める態度を育てていきたいと考える。

(3) 教材について

主人公たちが中学校に入学し、広いグラウンドでサッカーをしたいという気持ちから、新しくサッカー部をつくる活動を始める。うまくいかないサッカー部の活動の中で、友達の言葉や他校との試合を通して、サッカー部の活動の意義や自分の役割に気づいた主人公たちが、活動を後輩たちに思いを託そうとする気持ちを共感的に捉えて、よりよい学校生活や校風を築こうとする意欲や態度を養いたい。

(4) 指導に当たって

導入の段階で、学校の良さや校風等を取り上げたり、最上級生として部活動やさまざまな学校行事を牽引してきたりしたことを思い起こして、学校や学級の一員であることの自覚を促す。これまで、その中で、個々の力を合わせて取り組んで達成してきたことなどを振り返り、後輩に託したい思いを考えるとともに、自分の良さを発揮できるような集団の在り方について今の自分にできることを考えさせていきたい。グループで話し合う時にはホワイトボード用紙(教科書巻末)を活用し、道徳性の異なる生徒同士の思考を深めさせていきたい。

4 本時の学習指導

(1) ねらい

悩んだり、あきらめかけたりしながらも、最後までサッカー部の活動を続けた主人公たちの姿を通して、互いに協力し合い励まし合ってよりよい校風づくりに努めようとする意欲を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問 ◎主発問)	教師の活動と手だて
導入	<p>○矢沢中学校にはどのような伝統があるか</p> <p>1 本校の伝統についての事前アンケートの結果を提示する。</p> <p>本時の学習課題</p>	<p>・本時の学習に興味を持たせる。</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「伝統」について考えよう。</div> <p>2 「受けつがれる思い」の範読を聞く。前半のあらすじの確認をする。</p> <p>3 主人公と友人の迷いや葛藤を考える。</p> <p>○自分だったら、藤田君と堀君のどちらの気持ちだっただろうか。</p> <p><藤田></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分だってもう投げ出したい。 <p><堀></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今辞めたら、今までの苦労が無駄になってしまう。 ・自分の他にも頑張っている仲間がいる。 <p>4 後半のあらすじを確認する</p> <p>◎「任せたぞ」という言葉の中で、後輩たちが一番伝えたかったことは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが頑張ってきたことを、後輩たちにも続けてほしい ・自分たちがつくったサッカー部が存続していくように頑張りたい 	<p>ポイントとなる場面を紙板書で提示しながらあらすじを確認する。</p> <p>主人公の迷いや葛藤に気づかせる</p> <p>ネームプレートを使って、自分の考えを表示して、理由を発表する。</p> <p>グループで意見交流～まなボードにまとめて、発表する。</p> <p>伝統は、これまでの先輩や地域の方々の長年の努力によって培われているものだと気づかせられるようにしたい。決意表明や行動を強制することにならないように配慮する。</p>
終末	<p>5 本時の学習を通して感じたことをまとめ、Aシートに記入し、シールを貼る。</p>	<p>矢沢中学校の伝統の一部分にふれ、説話をする。</p>

(3) 評価

①評価の視点

3年生が培ってきたものを後輩が協力して継続し、発展させようとする気持ちが、よりよい校風をつくっていることに気づき、よりよい学校づくりについて自らの関わり方を深く考えている。

②「よりよい校風づくり」に対する考え方の変容 (導入の発問と自己を見つめる発問の記述)

グループにおける話し合い (机間指導、発表内容、プリントの記述)